

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：24201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12169

研究課題名(和文) 看護における involvement (かかわり) モデルの構築と検証

研究課題名(英文) Construction and Validation of Involvement Models in Nurse-Patient Relationship

研究代表者

牧野 耕次 (Makino, Koji)

滋賀県立大学・人間看護学部・教授

研究者番号：00342139

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：まず、概念分析により患者-看護師関係におけるインボルブメントの定義と概念枠組みを明らかにした。次に、総合病院に勤務する看護師12名に半構成インタビューを実施し、患者-看護師関係における看護師の専心のプロセスを明らかにした。

さらに、総合病院に勤務する看護師を対象とした調査により、患者-看護師関係における看護師の専心尺度を開発し、信頼性・妥当性を検討した。

最後に、総合病院に勤務する看護師を対象とした半構成インタビューにより、患者-看護師関係における看護師の専心の概念的定義を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

関与や巻き込まれと訳されるインボルブメントは性格やセンスなど個人的な側面として扱われがちであるが、スキルの側面に焦点を当て、その定義や概念枠組みを明らかにした。また、その属性である患者-看護師関係における看護師の専心の尺度を開発し、その概念的定義を明らかにした。

「看護の中心概念」と言われるケアリングでは扱いにくい否定的な巻き込まれを補完的にインボルブメントの概念枠組みを使うことで「個人的な問題」にすることなく「看護の枠組」の中で次に活かせることを示唆した。

以上の結果により、インボルブメントや専心の理論的知識が提供されたことで、看護師がスキルとしてインボルブメントを形成する可能性が広がった。

研究成果の概要(英文)：First, concept analysis of involvement in the nurse-patient relationship was conducted to clarify the definition and conceptual framework of involvement in the patient-nurse relationship. Next, semi-structured interviews were conducted with 12 nurses working in a general hospital to clarify the process of nurse dedication in nurse-patient relationships.

Furthermore, a survey of nurses working in a general hospital was conducted to develop a nurse-dedication scale in nurse-patient relationships, and its reliability and validity were examined.

Finally, semi-constructed interviews with nurses working in a general hospital revealed a conceptual definition of nurse dedication in nurse-patient relationships.

研究分野：精神看護学

キーワード：インボルブメント involvement 患者-看護師関係

1. 研究開始当初の背景

「関与」や「巻き込まれ」と訳される患者-看護師関係における看護師のインボルブメントは性格や資質、感性、センスなど個人的な側面として扱われがちである。「関与」と訳される場合は看護の中心概念といわれるケアリングを説明する概念として使用され、ほぼ同じ意味で使われている (Benner, 1989)。一方で、否定的な「巻き込まれ」については特に、教育の過程において警告の対象となり、看護の枠組みではなく、性格や資質、感性、センスなど個人的な問題として扱われがちである。「巻き込まれ」をスキルではなく個人の問題にしてしまうと、看護師自身も「自分が悪い」ととらえたり、患者や家族、チームのメンバーなど他者が悪いと責任転嫁したりして、看護の枠組みの中で振り返ることが困難になる。わが国では、患者-看護師関係における看護師のインボルブメントのように「関与」と「巻き込まれ」を同時にその意味としてもつ用語がないため、この二つは別々の概念として把握されてしまい、その関連性を考えることはさらに困難となる。そして、上手く「関与」できれば看護で、上手く関われずに「巻き込まれ」たら個人の問題にする暗黙のルールが存在している可能性がある。

Benner (2010) は、患者-看護師関係における看護師のインボルブメントのスキルとしての側面に注目し、それは実習や演習の中で指導者や教員がコーチングにより伝えていると述べている。今後さらに、患者-看護師関係における看護師のインボルブメントの概念や理論的な概念枠組みが明らかになることで、実習や演習だけでなく、理論的な講義による知識伝達も手厚いものになり、実習や演習との連携も可能になっていくと考えられる。

2. 研究の目的

看護における involvement (かかわり) モデルの構築と検証のために以下の4つを研究目的とした。

- 1) 患者-看護師関係における看護師のインボルブメントの概念を明らかにする。
- 2) 患者-看護師関係における看護師の専心のプロセスを明らかにする。
- 3) 患者-看護師関係における看護師の専心尺度を開発しその信用性・妥当性を検討する。
- 4) 患者-看護師関係における看護師の専心の概念的定義に関する検討を行う。

3. 研究の方法

研究目的 1) ~ 4) に合わせて以下の 1) ~ 4) の方法により研究を実施した。

1) 英語文献を対象とし PubMed、CINAHL、Academic Search Elite、SCOPUS を用いて、involvement および nurse-patient relationship をキーワードに 2018 年までの文献について検索を行い、111 件の文献を収集した。また、それらの引用文献などハンドサーチにより 11 件の文献を追加した。さらに、看護理論家による文献で、患者-看護師関係における看護師の involvement に関する記述の見られたもの 7 件を追加した。それらの文献を読み込み、患者-看護師関係におけるインボルブメントの概念に関する記述のない文献および看護学生と助産師のインボルブメントに関する文献を削除した。その結果、さらに重複したものを除いた残りの 30 件を今回の対象文献とし、Rodgers (2000) の概念分析の手法により分析した。対象文献を読み込み、患者-看護師関係におけるインボルブメントについての属性、先行要件、帰結に関する記述を抽出し、それぞれのコーディングシートを作成した。属性、先行要件、帰結について、それぞれ共通性と相違性を考慮しながらカテゴリー化を行い、カテゴリーの関連性に考慮しながら概念モデルを作成した。

2) 総合病院に勤務する看護師 12 名に半構成インタビューを実施し、M-GTA を用いて分析した。専心はそのことだけに心を注ぐことである。そのため「自分自身および自分以外との非物質的な結びつきを志向する内発的つながり性」(比嘉, 2017) である個人の spirituality は対象とする人やものごと、行為などに感情など精神的なものを向けるという点において、患者とのつながりを志向する専心に類似した概念であると考えた。そこで、文章完成法による spirituality 評定尺度 (以下、SRS-B) (比嘉, 2006) を使用し、研究参加者の「内発的つながり性」を属性としてとらえた。SRS-B の評点レンジが 0~10 であることから、本研究では評点 5 以上を「高群」、5 未満を「低群」として分類し、患者-看護師関係における看護師の専心のプロセスを特異的・理論的にとらえられると考えた。M-GTA では、収集したデータのアウトラインや文脈をもとにした概念生成を行うために、研究テーマに沿った分析テーマを設定する。また、データ中の社会的相互作用において主体となる分析焦点者を設定する。本研究では分析テーマを研究テーマと同じ「患者-看護師関係における看護師の専心のプロセス」と設定し、分析焦点者は「総合病院に勤務する看護師」とした。分析では、全インタビュー終了後に研究参加者を SRS-B の評点 5 以上の 6 名を「高群」、評点 5 未満の 6 名を「低群」として分類した。さらに、それぞれの群に対して、M-GTA の手順にしたがって、逐語録をもとに、患者とのかかわりにおいて看護師が集中し、意識が向けられている部分を抜粋して分析ワークシートを作成した。次に分析ワークシートを用い

て患者-看護師関係におけるプロセスの文脈を意識しながら、概念を生成し、複数の概念が生成された段階で概念間の関係を検討した。さらに、概念の取舍選択を繰り返し、カテゴリ-生成も同時に検討した。

3) 回収率 30~40%、作成尺度完成版 40~50 項目に適用するサンプルサイズ 450~600 名を想定して、関西圏にある 200 床以上の病院の看護部局長に依頼し、同意の得られた病院に所属する看護師 1500 名を目標に無記名の自記式質問紙を配布した。分析は統計ソフト IBM SPSS 27 および Amos 27 を用いた。項目分析では天井効果・床効果を確認し、Good-Poor analysis (G-P 分析) と Item-Total Correlation Analysis (I-T 分析) を実施した。信頼性の検討では Cronbach's α 係数を算出し、折半法を実施した。妥当性の検討では、構成概念妥当性の検討で探索的因子分析を実施し、確認的因子分析により二次元因子モデルの適合度を検討した。さらに、関連尺度、「日本語版 Ten Item Personality Inventory (小塩, 阿部, カトローニ, 2012) 10 項目」(BIG5)、「spirituality 評定尺度 A (比嘉, 2002; 比嘉, 2008) 15 項目」(SRS-A)、「没入尺度 (坂本; 1997) 19 項目」により基準関連妥当性を検討した。

4) 関西圏にある 200 床以上の病院の看護部局長に依頼し同意の得られた看護師に半構成インタビューを用いた質的記述的研究を実施し、患者-看護師関係における看護師の専心の属性、先行要件、帰結を抽出し、概念的定義を生成した。

4. 研究成果

上記の 1) ~ 4) に対応して、研究成果を以下の 1) ~ 4) にまとめた。

1) 30 件の英語文献を対象文献から、患者-看護師関係におけるインボルブメントとして、5 個の属性、患者が現在の状況より安楽になることに関心を向け集中することである【患者に専心する】、疾患や障害などにより患者が経験している世界に入ることである【患者の世界に入る】、患者の経験している世界に入ること、患者を理解することある【患者を理解する】、患者と経験を共有することで曖昧になる感情や責任の境界について、患者の主体性を尊重し、問題が起こらないように調整することである【境界を調整する】、お互いに信頼するための基盤をつくるためにつながりをもつことである【関係を形成する】が抽出された。さらに、4 個の先行要件【看護師の要因】【患者の要因】【患者-看護師関係の要因】【状況的要因】と 2 個の帰結【肯定的な変化】【否定的な変化】が抽出された。また、本研究結果の属性から、患者-看護師関係におけるインボルブメントの概念を「患者に専心しその世界に入ることによって患者を理解し、境界を調整することで患者との関係を形成すること」と定義した。さらに、属性、先行要件、帰結の関係から患者-看護師関係における看護師のインボルブメントの概念枠組みが提示された。

2) 本研究参加者である看護師は 12 名であった。また、看護師経験年数は 3 年から 22 年で平均 11.0 年、年齢は 26 歳から 49 歳で平均 35.2 歳であった。

看護師は患者と話すための環境を整え、接し方に気を配り、治療以外の話などをしながら生活者としての患者の背景を知ろうとしていた。また、患者との共通点を意識し、自己開示したり、患者の調子を気にかけたりしながら《生活者との関係構築》に集中していた。さらに、患者の目標や困りごとや、治療の受け止め方など《患者の思いへの配慮》に心を注ぎ、共感したり、無になったりして、思いの表出を促し傾聴したりするなど《患者の思いへの対応》に専念していた。患者の思いを受け止め対応する中で、ときに困難感でいっぱいになったり、その患者のことばかりになったり、抱え込んだり、頑張ったりするなど《看護師の感情的反応》を経験していた。やがて、患者-看護師関係が構築されはじめると、患者に取り込まれないようにしたり、ルール範囲内で患者に巻き込まれたり、言いたいことおさえたりしながら、患者との距離を保ち《患者-看護師関係の維持》にも集中していた。患者-看護師関係が構築され、その関係を維持しながら、看護師は肯定的な側面にかかわり、家族も含めて細やかなケアを行っていた。また、患者の目標をイメージし、患者に合わせて尊重しながら、展開を予測し現実とすり合わせ、《個別的なケア》に集中していた。以上のように、看護師は基本的に《患者を中心とすることに》専心しようとしていた。多様で多重な負荷がかかる実際の臨床現場では、患者-看護師関係における看護師の専心の対象は、その状況に応じて基本的には患者に向かっていった。最終的には、個別的なケアに向かっているが、専心の対象は意図的なものから無意識的なものとなったり、患者の思いから看護師自身の行為や感情になったりしていた。ときに、集中しすぎて周りが見えなくなったり、どうしていいかわからなくなったりするなど、専心の対象は変化していた。このような患者との出会いから個別的なケアを行うまでに至る専心の変化のありようである「患者-看護師関係における看護師の専心のプロセス」をコアカテゴリー【流動的専心】とした。

3) 最終的に総合病院に所属する看護師 461 名の回答を分析した。探索的因子分析の結果、患者-看護師関係における看護師の専心尺度の下位因子として、過去や現在の影響を受けている患者の思いを大切にすることである【尊重】、周囲の状況や患者の世界に入り込むことである【没頭】、治療状況におけるかかわりを見通すことである【予見】、できるだけ患者の本心に近づこうとすることである【関心】の 4 因子 12 項目が抽出され、確認的因子分析の結果、二次元因子モデルが容認され構成概念妥当性が確認された。Cronbach's α 係数は .72~.81 で内的整合性が確認された。さらに、ある程度の基準関連妥当性が確認された。

4) 看護師 10 名 (看護師経験年数は 3 年から 36 年で平均 15.20 年、年齢は 26 歳から 49 歳で平均 40.30 歳) を研究参加者として、その逐語録を分析した結果、患者-看護師関係における看護師の専心の属性として【思いを理解しようとする】【要点をとらえようとする】【そばにいる】【経験を重ね合わせる】【全体的情報収集をしようとする】の 5 個の категорияが抽出された。また、先行要件として【患者の思い】【患者の背景】【先の考慮】【看護師の特性】【家族の背景】【関係における制約】の 6 個の категорияが抽出された。さらに、帰結として【細やかなケア】【境界の調整】【サポート体制の強化】【結果の意味づけ】の 4 個の categoria が抽出された。「患者-看護師関係における看護師の専心概念」の属性の意味を統合することで、新たな看護師の専心の概念的定義を「対象の主観的・客観的経験世界を共有しようとする」とした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 牧野耕次, 比嘉勇人	4. 巻 39
2. 論文標題 患者 - 看護師関係におけるインボルブメントの概念分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 359-365
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.39.359	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧野耕次, 比嘉勇人	4. 巻 41
2. 論文標題 患者 - 看護師関係における看護師の専心のプロセス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.41.37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 牧野耕次, 比嘉勇人
2. 発表標題 看護における involvement の概念
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会講演集38回
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	比嘉 勇人 (Higa Hayato) (70267871)	富山大学・学術研究部医学系・教授 (13201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------